

会 議 録

会議の名称	平成 28 年度第 1 回茨木市総合教育会議
開催日時	平成 29 年 2 月 15 日 (水) (午前 午後) 2 時 00 分 開会 (午前 午後) 3 時 40 分 閉会
開催場所	市役所南館 3 階 防災会議室
議 長	福岡 洋一 (茨木市長)
出席者	福岡 洋一 (茨木市長) 岡田 祐一 (教育長)、京兼 幸子 (教育長職務代理者)、 片山 正敏 (教育委員)、篠永 安秀 (教育委員)、 武内 由紀子 (教育委員) 【 6 名 】
欠席者	なし
事務局職員	河井副市長、大塚副市長、秋元企画財政部長、佐藤こども育成部長、 岡こども育成部理事、乾教育総務部長、小川学校教育部長、 小西政策企画課長、森岡教育総務部次長、加藤学校教育部次長、 小山教育政策課係長、中田政策企画課職員 【 12 名 】
開催形態	公開
議題 (案件)	(1) 開 会 (2) 市長あいさつ (3) 報告案件 茨木市教育大綱の体系に沿った第 5 次茨木市総合計画における施策等評価結果について (4) 協議案件 第 4 次 3 か年計画の骨子について (5) 閉 会
配布資料	(1) 茨木市教育大綱の体系に沿った第 5 次茨木市総合計画における施策等評価結果 (2) 第 4 次 3 か年計画の骨子について (3) 茨木市教育大綱
傍聴人	2 名

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>1 開会 ただ今より、「平成 28 年度第 1 回茨木市総合教育会議」を開催する。</p>
福岡市長	<p>2 市長あいさつ まちを持続させていくために必要な要素として「仕事」、「教育」、「安全」の 3 つが大切だと考えている。茨木市においては、「教育」が他市に比べて秀でていると感じており、これからも子どもたちの教育環境が良くなるよう努めてまいりたい。</p>
福岡市長	<p>3 茨木市教育大綱の体系に沿った第 5 次茨木市総合計画における施策等評価結果について 茨木市教育大綱の体系に沿った第 5 次茨木市総合計画における施策等評価結果について、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>【茨木市教育大綱の体系に沿った第 5 次茨木市総合計画における施策等評価結果について説明】</p>
京兼教育長 職務代理者	<p>待機児童の解消に関しては、全国的に問題となっているが、茨木市では、どの程度解消できると考えているのか。</p>
事務局	<p>待機児童の問題については、平成 29 年 4 月の解消をめざして、施設整備等行ってきたが、待機児童として認める国の基準が変更となるため、4 月の解消は難しくなっている。現在は、平成 30 年度の解消に向けて取組を進めている。</p>
片山委員	<p>保育士等への手当については、対策は考えているのか。</p>
事務局	<p>確実に保育士を確保するため、新年度から、保育士として働こうと思っている方の子どもを優先的に預かり、保育現場に戻ってもらえるような事業を実施する。また、保育士の宿舎の借り上げの補助について、国の補助の範囲を超えて、茨木市で支援しており、引き続き実施する。</p>
篠永委員	<p>保育所を増設しても、保育士や看護師の確保が難しくなっている。保育士等の募集の際に、手当での面でアピールするのも重要だが、働きたいと思える魅力的な保育所づくりや情報発信も、市で行っていく必要があるの</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>ではないか。</p> <p>1月に、ハローワークと私立保育園連盟が共催して、保育士限定の説明会及び就職相談窓口を実施した。各園の様子をPRする機会として、今後も続けていきたいと考えている。</p>
武内委員	<p>茨木市教育大綱として位置づけられている取組の中に、「青少年の体験活動の充実」とあるが、小・中学校を卒業した青少年が、どのようなことで市の中で活躍できるのかをお聞きしたい。</p> <p>学校教育の後の段階で、どのように魅力的な職場、生活の場づくりをしていこうとしているのか、またどのような青少年の体験活動の取組を考えているのかを教えてください。</p>
福岡市長	<p>茨木生まれ、茨木育ちの人が、その後もずっと茨木で暮らし、次の世代が茨木で生まれてといったライフサイクルができればと考えているが、実際は、どこの高校に進学したかまでは追いかけることはできても、大学以降はそれができない状況である。市内には多くの大学があり、大学生が卒業後どこに住んで働くかといった段階の前に、市として働きかけを行う必要があると感じている。</p>
事務局	<p>大学を出た後も茨木市に住んでもらいたいという思いから、大学の奨学金利子補給事業を実施している。</p> <p>また、大学時代に愛着をもってもらえたら、就職でいったん外に出ても、戻ってきてもらえるのではないかとということで、学生と地域が連携して行う事業への補助金を創設し、またそういった事業をマッチングするためのホームページ作成も行っている。</p>
片山委員	<p>子どもたちがボランティア活動などを通じて、地域の皆さんのために貢献していると実感できる機会を増やすことは、子どもの成長にとって大きいことであり、地域とのつながりも深まるのではないかと。子どもたちと様々な世代の人たちが交流できるような機会を、体験活動の中に位置づけてほしいと考えている。</p>
事務局	<p>全域防災訓練を1月に行っているが、若い人の参加が少ないという課題がある。次年度は避難所運営などの体験を、小・中学生にしてもらえるような仕掛けを考えている。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	今年実施したシェイクアウト訓練でも、学校に働きかけを行っているが、ボランティアについて組織的に仕掛けていくのは難しいのではないかと感じる。茨木高校の生徒が訓練の際に、自主的に役目を担っているという事例があるので、今後もそういった動きが広がっていけばと思う。
武内委員	学校と市の連携以外に、企業と市の連携も考えてはどうか。
福岡市長	防災訓練の関係で、企業に訓練を実施するよう依頼をしている。
事務局	企業は地域貢献活動の一環で、学校教育に積極的に関わろうとしており、教育委員会に様々な提案等がある。その中で、内容によっては総合的な学習の中で活用したりしている。中学生に関しては、企業と連携して職業体験を実施している。
	4 第4次3か年計画の骨子について
福岡市長	次に、第4次3か年計画の骨子について、事務局から説明を求める。
事務局	【第4次3か年計画の骨子について説明】
岡田教育長	この取組については、これまでの9年間、地道に取り組んできたことが成果として現れたと感じている。一番成果が上がっているのが、学力の指標として設定している平均正答率40%以下の子どもの数を少なくするという点であるが、学力の樹の根っこの部分である「ゆめ力」等の5つの力を伸ばすことにも力を入れて取り組んできた。 次期指導要領では、取り組まなければいけないことが増えるので、教員が子どもたちと向き合う時間をいかに保障するかが今後の課題である。また、道徳が教科化されるので、教員の資質の向上にも取り組みたい。
篠永委員	9年間の計画で、これだけ学力があがっているのは珍しいのではないかと。ゆめ力等が計画に組み込まれていて、見える化しているのが肝だと思う。また、特筆すべきなのは、保幼小中連携に取り組んでいることである。未就学児から取組を進めていけば、効果は絶大になると期待している。 今後は、学習要綱の内容が増える中で、学校以外の学習の場をどうやって増やしていくかが課題であると思う。ITシステムを用いた取組ができたらいいのではと個人的には考えている。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福岡市長	I Tを用いた取組としては、E ラーニングのシステムがあるが、今は、てこ入れしないといけない状況である。
篠永委員	E ラーニングの開発には時間がかかるので、茨木市として独自に進めていけるところがあれば、対内外的にも魅力ある教育につながるのではないか。
京兼教育長 職務代理者	今後、茨木市では、教員の年齢構成が変化し、若年層の教員が増えると予測されている。また、道徳や英語といった新たな取組が増えるなど、教員の多忙化が問題となっているので、事務的な負担を減らして、教員が自己研鑽に励むことができるような環境整備をしてほしいと思う。
福岡市長	教員の多忙化については把握しており、教員が子どもたちと向き合う時間を作れるよう取組を進めていきたい。
武内委員	先生が把握しておくべきこととそうでないことを精査して、業務改善を進めてほしい。また、学校によって生徒も違うので、実態に沿った指導ができるよう、教員の指導力の向上に努めてほしい。委員会においては、学校が子どもたちをどう育てていこうとしているのかを把握して、サポートをしていきたい。
事務局	業務改善については、子どもに関わるような必要な業務とそうでない業務をしっかりと分けて進める。 また、授業力を高めるための研修については、授業をマニュアルどおりに行うのではなく、子どもの様子をみとり、子どもが主体的に学べる授業ができるような研修を実施していきたい。
事務局	学校によって実態が違うということは重要なことであるので、今後もしっかりと押さえていきたいと思う。
片山委員	調査によれば、学校と連携が取れているところは、家庭でも落ち着いて勉強ができています。5つの力は、学校での集団生活やいろんな社会体験の中で伸びていくので、そうした体験の機会を与えていくことが大切である。 また、先生が子どもとコミュニケーションがとれる環境を整えてほしい。
事務局	5つの力のうち「ゆめ力」については、小学校で「2分の1成人式」という取組を行っており、10歳のころから将来を意識する機会を設けている。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>また、中学校では地域の方と一緒に「クリーンキャンペーン」という取組を行っている。今後も、教室での授業だけでなく、こうした活動を通して、「ゆめ力」「自分力」などの力を伸ばしていきたいと考えている。</p> <p>計画にある「学力の樹」の根にあたる部分は、保育所や幼稚園の時代から育てる取組を行い、その土台の上に、学校で学力が培われていくという認識である。</p>
武内委員	<p>親が子どもに対してどう関わっていくかといった家庭教育の部分も大事なのではないかと。</p>
岡田教育長	<p>子どもの貧困が問題となっており、家が経済的に苦しく、子どもが不安を感じている例もある。教育委員会では、課題のある家庭には、スクールソーシャルワーカーから働きかけをしてもらっている。</p> <p>家庭教育学級も実施しているが、来てほしい人が来ないという問題もあるので、他に取組を考える必要があると考えている。</p>
篠永委員	<p>貧困の問題については、どの家庭に支援が必要なのかをしっかりと見極めて支援していかないといけない。また、5つの力が子どもの多様性を生み、茨木市を活性化させていくことになると思うので、「学力の樹」が家庭の中でもいきるような指導を心がけてほしい。</p>
京兼教育長 職務代理者	<p>子どもの貧困に関しては、教育と福祉の2つの観点があり、本来、個別の家庭に介入するのは福祉がすべきであるが、現在は教員が対応している。価値観が多様化する中で、どこまで子どもに手を差し伸べられるかが問題である。</p>
福岡市長	<p>子ども・若者支援について、関係団体も含めてヒアリングを行い、どのような支援を行っていくかをまとめているところである。今後も取組を進めていく。</p> <p>いただいた意見を踏まえて、第4次3か年計画を策定していただきたい。</p>
福岡市長	<p>4 閉会</p> <p>これをもって、第1回総合教育会議を終了する。</p>